



1. 溝2遺物出土状況（南から）



3. 2号柱立柱建物検出状況（北から）



2. 溝2遺物出土状況（南から）



4. 溝2全量（東から）

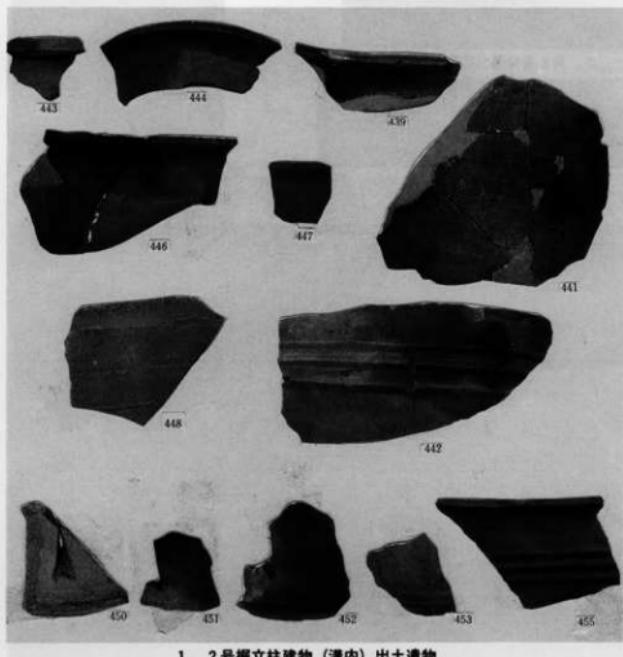


5. 柱穴掘り下げ状況（北から）



6. 2号柱立柱建物遠景（北から）

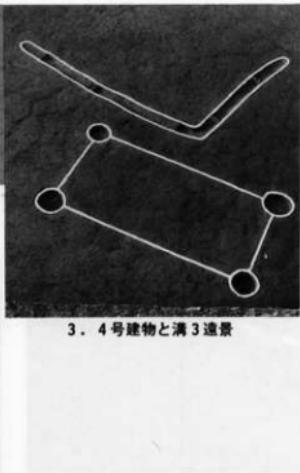
图版42



1. 2号掘立柱建物（溝内）出土遺物



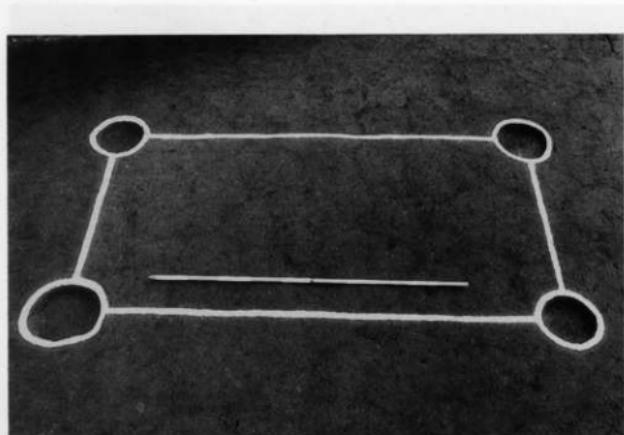
1. 4号掘立柱建物振り下ろし状況



3. 4号建物と満3遠景



2. 作業風景

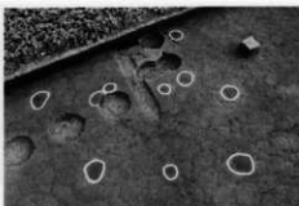


4. 4号掘立柱建物全景

図版44



1. 6号・7号建物検出状況(1)



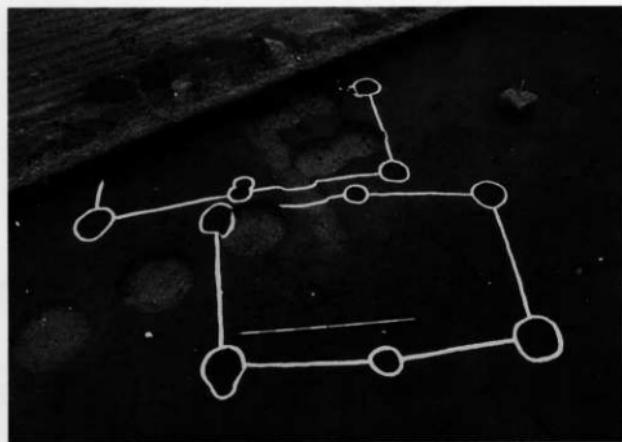
2. 6号・7号建物検出状況(2)



3. 6号・7号建物掘り下げ状況



4. 6号・7号・8号建物遠景



5. 6号・7号据立柱建物全景



1. 8号建物掘り下げ状況（東から）



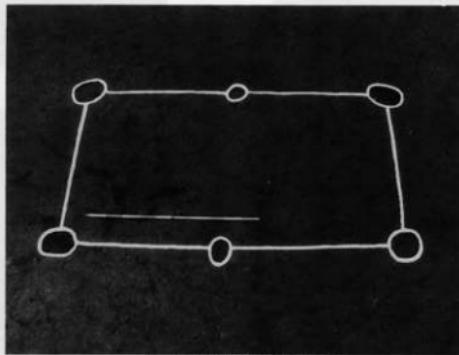
2. 建物群遠景（西から）



3. 8号建物柱穴出土遺物



4. 柱穴掘り下げ状態



5. 8号建物全景（東から）

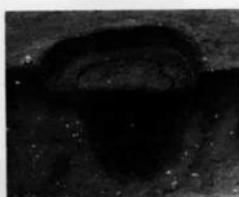


1. 1号建物跡柱穴 (No16)

2. 3号建物跡柱穴 (No 9)



3. 1号建物跡柱穴 (No15)



4. 3号建物跡柱穴



5. 3号建物跡柱穴

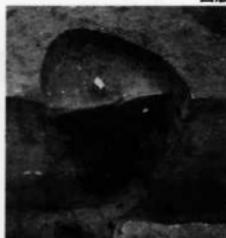


6. 4号建物跡柱穴

柱穴検出状態



1. 4号建物跡柱穴



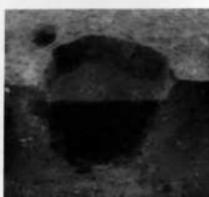
2. 5号建物跡柱穴



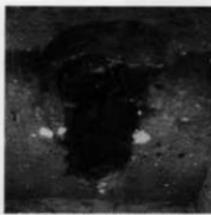
3. 7号建物跡柱穴 (No 2)



4. 7号建物跡柱穴 (No 1)



5. 7号建物跡柱穴 (No 3)



6. 7号建物跡柱穴 (No 6)

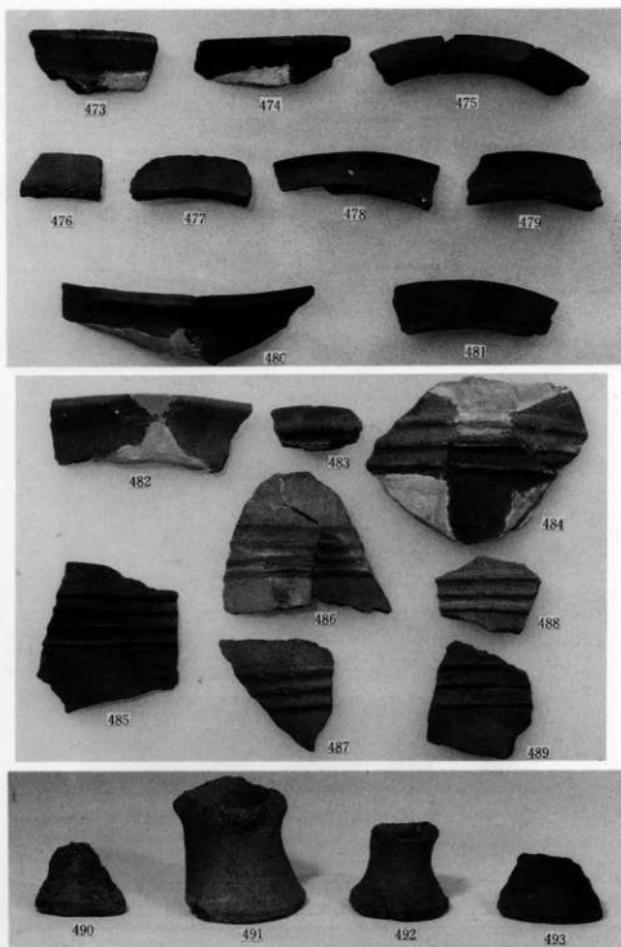


7. 円形周溝と建物跡柱穴の切り合い
柱穴検出状態

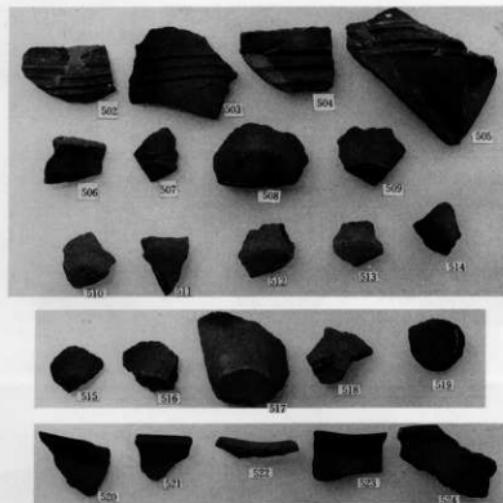
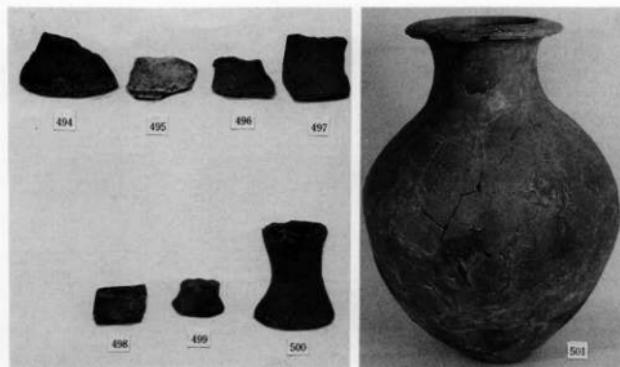
图版48



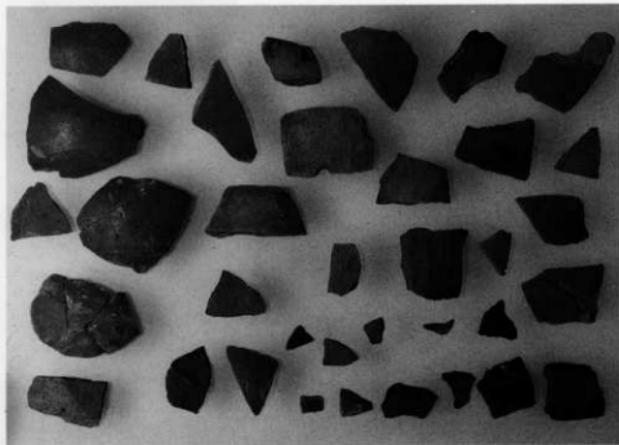
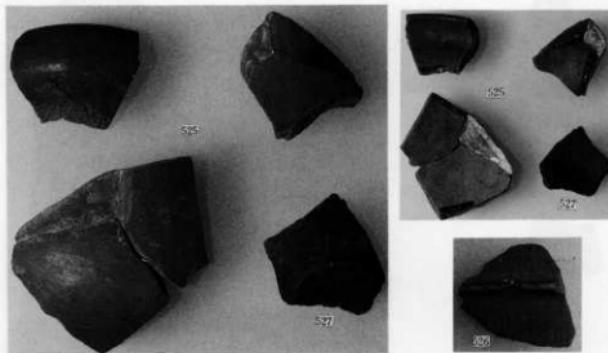
1. III层出土土器 (1)



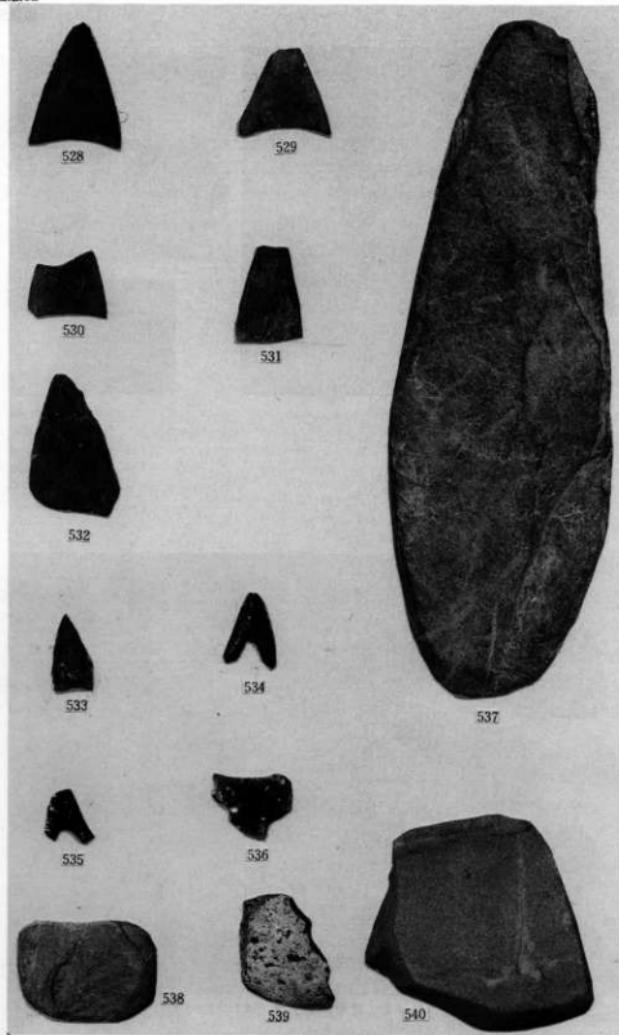
1. III層出土土器 (2)



1. Ⅲ層出土土器 (3)



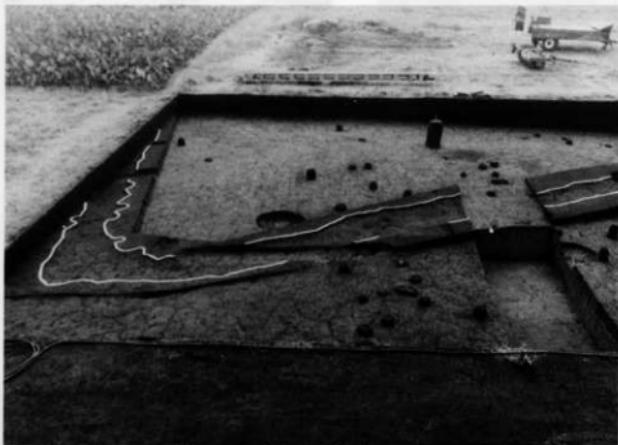
1. III層出土土器 (4)



1. Ⅲ層出土石器



1. 中・近世溝状遺構



2. 中・近世溝状遺構

図版54



1. 1号墓 (北から)



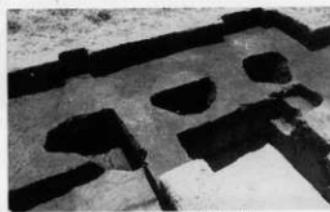
3. 1号墓作業風景



2. 1号墓遺物出土状態



4. 2号・3号墓 (東から)



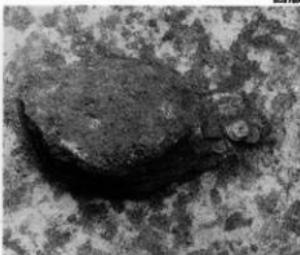
5. 2～5号墓 (北から)



6. 2～5号墓 (北西から)



1. 3~5号墓(東から)



2. 4号墓出土状態



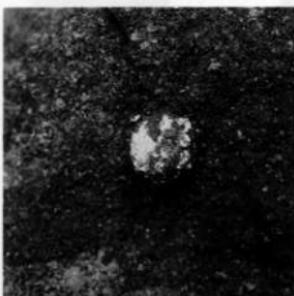
3. 4号・5号墓(東から)



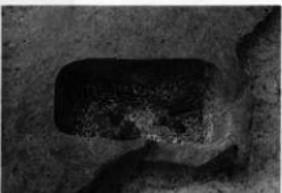
4. 6号墓(北から)

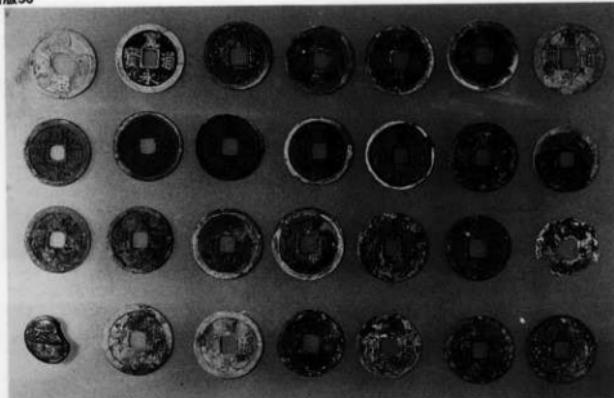


6. 7号墓(東から)

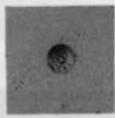


5. 7号墓出土遺物

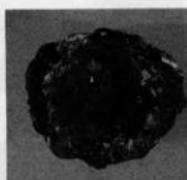




1 古銭（1号～4号墓）



2. ガラス玉（2号墓）



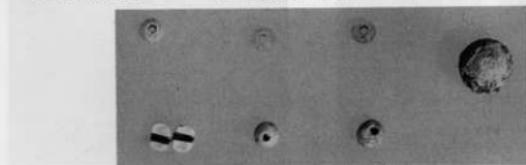
3. 古銭（6号墓）



4. 楯（4号墓）



5. 古銭（6号墓）



6. 数珠玉（7号墓）

あとがき

一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う大浦・郷之原地区的発掘調査は足掛け四カ年にわたり、ようやく調査報告書を刊行する段階を迎えた。そして、前回に続き、前半の昭和60年度及び昭和61年度に調査を手掛けた「中ノ原遺跡（弥生時代）」と後半の昭和62年度及び昭和63年度に調査を手掛けた「中原山野遺跡」と「西原掩体壕跡」と「前畠遺跡」の整理作業と報告書作成を完成了。

大浦・郷之原地区的台地に展開するこれら4遺跡の発掘調査は、古代史研究上、多くの成果を提供してくれた。時代としては、縄文時代から戦跡遺構などの現代にわたる多時期に及ぶ豊富な資料である。

縄文時代早期では、前畠遺跡の集石遺構群の検出とそれに伴う多量の平柄式土器を中心とする遺物の出土である。特にこれまで本県では比較的希薄であった平柄式期の成果は、縄文土器研究に大きな成果を与えることが期待される。

弥生時代はまた多くの成果が得られた。中ノ原遺跡や中原山野遺跡では、各形態の竪穴住居址や多量の遺物が得られた。その極め付けは、前畠遺跡の弥生時代の集落跡の発見である。3基の竪穴住居址と3棟の平地式建物跡及び5棟以上の高床倉庫跡の検出は、弥生時代の集落構成を知る貴重な成果となろう。また、多量に出土する在地系の山ノ口式土器に今回共伴して出土した移入土器（北部九州系土器や瀬戸内系土器）の在り方は、南九州の弥生時代中期終末期から後期初頭の土器編年で大きな示準を与えてくれた。

さらに、七基の近世墓の発見も今回の成果の一つにあげられる。副葬銭の埋納形態は、南九州の近世墓研究の指標となろう。

また、掩体壕や誘導路などの戦跡遺構の発掘調査は、鹿屋の歴史上の記録として見逃してはならない資料である。

発掘調査中は、「古代史探訪」をはじめ各機関の研修会も実施された。また地域住民の多くの見学、さらには現地説明会や公民館での遺跡説明会なども実施して、埋蔵文化財への理解と啓発にも努めたつもりである。なお、遺跡だより「うらごのはい」の発行は、発掘調査を円滑に進めたと共に参加者の大きな記念となった。

最後に、発掘調査や整理作業において、地元の鹿屋市教育委員会や大浦町及び郷之原町の地域の方々の様々な便宜や協力を頂いた。深謝の意を表したい。

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(52)

一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書(Ⅲ)

前 畠 遺 跡 (第6分冊)

発行日 平成2年3月

発 行 鹿児島県教育委員会 〒892 鹿児島市山下町14番50号

印 刷 所 中央印刷株式会社 〒892 鹿児島市春日町12番16号